

# わかやま母親通信

第104号 2023年5月13日発行

発行 和歌山県母親大会連絡会 事務局 和歌山市小松原通3の20 和歌山県教育会館内  
和教組 TEL073-423-2261 FAX073-436-3243 母連メール: w\_haharen@wkn.or.jp

生命を生み出す母親は  
生命を育て  
生命を守ることをのぞみます

HP 和歌山県母親大会

## 連れもて行こら〜 県母親大会 in 田辺 / Big・Uへ



午後の全体会のプログラムについて紹介しましょう。

M. I. さん(和教組)、N. O. さん(新婦人龍神)が司会進行します。

13:00~13:20 オープニング DVD『和歌山の自然・歴史・文化』を上映  
和歌山県母連が製作したDVDです。昨年の県大会で上映した後少し修正をし、再上映します。来年の「第69回日本母親大会 in 和歌山」の全体会開会前に、会場と全国オンライン配信で、「和歌山の紹介」として流したいと考えています。

13:20 開会 開会挨拶 S. Y. 県実行委員長です。

13:30~14:00 各地の運動交流 各地から粘り強い要求運動が報告されます。

- ①乗合タクシー/小型バスの運行を(西牟婁) ②中学校給食の自校方式実施を求める運動(和歌山市) ③学校給食費を無料に(伊都) ④平和を願うストリートアピール(有田) ⑤パートナーシップ制度実施に取り組んで(那智勝浦町在住)…依頼中

14:10~15:15(60分) 音楽&トーク 『憲法・平和を歌う』

待望のうたごえオールスターズの歌・演奏とトークをお楽しみください。

15:15~15:40 「『第69回日本母親大会 in 和歌山』を成功させましょう」のお願いと行動提起、大会宣言採択、閉会の挨拶(Y. N. 現地実行委員長)で締めくり、閉会します。全体会場でバザーもします。お楽しみに。

### 明日へ

きてな〜 知の巨人・南方熊楠が研究に没頭し、晩年を過ごした熊野の自然豊かな地。10年ぶりに県母親大会をこの田辺・西牟婁地方で開催する

コロナが収束していない状況の下、会場探しに苦労し、現地実行委員会の立上げもかなり遅れての取組みとなりましたが、規模や内容・取組みを工夫し、「田辺でやってよかった。来てよかった。」と思ってもらえるような実りある誰もが元気になる県母親大会をめざし、県実行委員会と共に取組みを進めてきた。京大水族館&南方熊楠記念館と特攻艇基地跡の鳥の巣平和公園の見学を企画している。バザーは紀南の名産品をはじめ、各郡市からの出品が多々あり、楽しみである。

日頃の思いや、願いを思い切り語り合ひましょう。みなさんの参加をお待ちしています。みんな、きてな〜。

C.N.



鳥の巣平和公園内

## 「わかやま母親通信」102号に掲載した「無意識の思い込みチェック」をやってみましたか？…103号の「解説」のつづきです。

- 6 組織のリーダーは男性の方が向いている 7 女性の上司には抵抗がある

日本は世界的にも意思決定層に女性が少ない国だ。圧倒的に女性リーダーがいない現実の背景には、女性役職者の受け入れに対する男性側の抵抗感があるようだ。リーダーシップのスタイルは1つではない。変化が激しく、複雑性の高い現代では、状況対応型や支援型、共感型など様々なリーダーシップが求められている。組織の多様性が増す中で、女性が自分らしいリーダーシップを発揮することは益々重要となっている。女性管理職が増えていくことで環境も変わり、思い込みや抵抗感も払しょくされていくだろう。

- 8 男性は結婚して家庭を持って一人前だ 11 男性は仕事をして家計を支えるべきだ

長年私たちの意識や行動に染みついた大黒柱バイアスは、働く場においては制度や仕組み、あるいは暗黙のルールとなって組み込まれ、強固なものとなってきた。会社にとってもそう簡単になくなるものではないだろう。だからといって、それを容認しては何も始まらない。仕事と家庭の役割を一方のみが担うやり方は限界にきている。役割が固定されてしまうと、状況が変化したときに共倒れになりやすく、リスクが高すぎると言える。「男性は〇〇すべき・女性は〇〇であるべき」というジェンダー・バイアス、アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)を超え、男女が双方の生きづらさを理解し合い、責任を分かち合い、協力しながら最良の選択肢を選び取っていくことが大切だ。

- 10 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきではない

育児中だからと言って、女性が重要な仕事を担えないわけではない。育児に配慮することは大切だが、本人と十分に話し合わずに「重要な仕事を担当すべきでない」と決めつけて役割を与えないとしたら、それは勝手な思い込みであり、過剰な配慮だともいえる。このような無意識の思い込みを排除し、まずはしっかり話し合うことが大切である。

- 12 女性社員の昇格や管理職への登用のための特別な教育・訓練は必要ない

「女性が管理職になりたがらない」と言われる背景には、女性がリーダーシップを発揮する機会や経験不足、仕事と生活の両立への不安、ロールモデルの不在など様々な外的要因がある。研修やOJTなど、成長の機会が男性に比べて少ないことも一因だろう。

女性に対する教育・訓練は、女性が無意識に陥りやすいインポスター症候群などを排除し、リーダーシップに対する思い込み(女性には無理、向いていない、なれない)を払しょくするためにも不可欠だ。女性に対する教育や施策は、決して「下駄をはかせる」ということではない。能力ある女性の背中を押し、きちんと期待を伝え機会や経験を積ませその能力を開花させるための投資なのだ。\*OJT…仕事を通し知識やスキルを伝承する。

◎内閣府男女共同参画局が、令和3年に調査検討委員会(荒金雅子・委員)に監修・解説を依頼して作成した資料からの抜粋である。HPからダウンロードできる。